

[31]九州文化史研究所紀要表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7183275>

出版情報：九州文化史研究所紀要. 31, 1986-03-25. Kyushu Bunkashi Kenkyusho, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

九州文化史研究所創立五十周年

九州文化史研究施設開設二十周年

記念特集号の発刊にあたって

九州文化史研究所が、学内措置によって九州大学法文学部内に創立されたのは、昭和九年のことである。この年から起算すると、本年をもって満五十年の年月が経過したことになる。また、研究所が文学部の附属研究施設の形で正式に文部省から認められ、九州文化史研究施設として改組・発足したのは昭和四十一年のことである。この年から起算すると、本年は研究施設の開設二十周年に当るわけである。この節目に当る年を記念するため、当研究施設では昭和六十一年十一月九日に記念講演会と祝賀会を開催し、さらに、紀要の月号（三十一号）を記念特集号として世に送ることとした。

さきに研究施設の十周年記念号（二二号）を刊行して以後、研究施設の組織の上に生じた大きな変化は、既設の第一研究部門（対外交渉史部門）に加えて、昭和五十一年度に第二研究部門（比較考古学部門）の増設が認められたことである。

第一部門では、文部省科学研究費による総合研究の成果として、まず『九州天領の研究』（昭和五十一年）を、ついで『佐賀藩の総合研究』（昭和五十六年）を刊行し、さらに引き続き第三次の総合研究として、西南雄藩を中心とした「藩政改革と明治維新」の研究を推進しつつあり、その成果の一端が本号に特集されている。また、同部門では、施設開設前から収集されている古文書約三十万点の整理を引き継ぎ、本年までに『九州文化史研究所古文書目録』十五号

を刊行するとともに、九州各地の古文書のマイクロ・フィルムによる撮影を進め、現在までに撮影したフィルムの総数は四十万齣に達している。

第二部門では、土器製作技術、製塩等のサブテーマに加えて、昭和五十九年度から主たる総合研究のテーマとして「北部九州における弥生文化の成立」を取り上げ、科学研究費の交付を得て発掘調査と資料の集成を進めている。本号に特集したのはその成果の一部である。

そもそも九州文化史研究所は、九州が日本文化の発展の上に果たした役割の重要性と独自性にかんがみ、九州文化の史的発展を総合的に解明することを旨として創立された研究所である。今日、この目的を十分に達成し、社会の要請にこたえるためには、一方で、九州の地域に根ざした研究をますます深めるとともに、他方、広い学際的・国際的視野に立った研究の推進が必要とされる。当研究施設は官制上、文学部の附属施設の形をとっているものの、文科系諸学部の教官をメンバーに迎え、また、広く学外の諸機関に属する研究者を研究員に迎えているのは、上記の趣旨にそったものである。記念特集号の刊行にあたり、長年にわたって当研究施設の事業を支持していただいた多くの方々に謝意を表し、今後のさらなるご支援をお願いする次第である。

昭和六十年十二月

九州文化史研究施設長

横山浩一